

黒

榎本壮流

そのことを考えると大きくなる
それをなくそうとすると膨らんだ
どうにか消そうとすればするほど
なくなってくれと願えば願うほど

ある時突然に出来上がったそれは
ふとした時にわたしの中に現れて
朝とか楽しさとかにはかくれてて
わたしの中にいないときもあつた

くらいときこそ、それが目立った
そいつがわたしを黒くしていった
いきものでもなく、ものでもない
いないはずのものなのに強かった

ずっとわたしの中で暮らしていた
でも気が付いたらいなくなってた
ずっといたからなやんでいたのに
なんでもない時にいなくなってた